

宮古市田老町小堀内漁港の湾内状況



※崖の中腹の木に引っかかっている漁業用のウキ
下の写真赤丸印部分に人が写っているのだが、ほとんど米粒にしか見えない。この波が市街地を襲ったのである。

下の写真で注目して欲しい点は、湾内に点在するテトラポットと呼ばれる消波ブロック。本来は堤防の外側に置かれ、大きな波の勢いを弱めるためのものだが、堤防を越えて湾内に散らばってしまっている。これでは漁船が岸壁に接岸できないため、漁に出ることもできない。



3
8
m

※NHKニュース記事より

大津波で壊滅的な被害を受けた岩手県宮古市では、津波が各地の調査で判明した中で最も高い、およそ38メートルの高さまで駆け上がっていたことが分かりました。

津波災害を研究している東京大学の都司嘉宣准教授のグループは、3日、岩手県宮古市田老地区で津波の高さや建物の被害状況を調べました。このうち小堀内漁港では、海岸線からおよそ200メートル離れた高台で津波が斜面を駆け上がった痕跡が見つかり、測定の結果、高さが37.9メートルに達していたことが分かりました。これは、各地で行われている専門家による調査で判明した中で最も高く、1896年の明治三陸津波の際に岩手県大船渡市で確認された、38.2メートルに匹敵する大津波が押し寄せていたことが分かりました。調査に当たった都司准教授は「明治三陸津波に匹敵するか、それを上回る規模の津波だったことが分かった。場所によっては、さらに高くなっている可能性もあるので、ほかの研究者とも連携して引き続き調査を進めたい」と話していました。

湾内から外洋を望む。
本当に穏やかな表情
の海です。
消防車の右側に見え
る岩と同じ岩が写って
います。



見回りの消防団員が犠牲
に・・・ 消防車がある
この地点で20m以上の高
さがあります。



悲しい舞台となってしまったコンビニ



地震直後、バイト店員が避難しようとしたところ、店長からお客への対応を最優先しろと言われ、壊れたガラスや商品の後片付けをしていたところに大津波に襲われて命を落としてしまいました。店長は一命をとりとめましたが・・・

遺族への謝罪の場面を想像してみてください。筆舌に尽くしがたい場面です。ある小学校では校庭に避難させて津波に襲われ尊い命が失われています。沿岸部へ行かれる方は肝に銘じてください。先ず避難が優先です。「津波てんでんこ」三陸地方で言い伝えられてきた教訓です。

上の写真はソプラノのT橋T子さん提供。宮古・久慈方面へ調査に向かう途中、野田のO埼T子さんのところにも陣中見舞いに行くつもりだったので、声をかけたところ快諾してくれました。同級生だし、なにより知っている顔が多ければそれだけ励みになりますからね。野田で思いがけない出会いもありました。AB-K葉さんが帰省していたのです。なんでも、部屋が汚れていたのを掃除しようとしたその時にあの地震。そうです。今回の震災の直接の原因はK葉さんの普段しない行動にあったのです。という話をできるだけ元気でした。



野田村も大変な被害を受けました。通りを一本隔てて風景が一変します。線路は三陸鉄道のものですが、右側の道路のさらに右側にあったものなのですが・・・

野田村で特徴的な被害は、引き潮の影響がなかったこと。普通であれば、津波が押し寄せ建物を破壊し、引き潮で海岸がガレキの山。なのですが、ここでは津波が全てを壊して山側にガレキを押しやってしまったという被害です。

海面からは10m以上ある高台の食堂が無残な姿に。一年前にはO埼さんとK葉さんの三人で海鮮ラーメンを食べた場所です。

そのあと、海岸で砂に書いたラブレターごっこをした場所ですが、こちらにも面影は失われてしまいました。

野田の道の駅では、通常の仕入れができなかったこともあり、被災者や支援に来てくれた人のために無料で食事が振る舞われていました。近所の人が持ち寄った材料なので質素な料理ばかりですが、あたたかい湯気が立ち上る素敵な料理でした。今でも、ご飯とお新香は無料でした。



避難所の様子 【グリーンピア田老】

ここでは、避難所の様子をまとめてみました。支援物資を考える際の参考として、また自分が被災した場合、避難所でどのように行動すべきか、運営面などの参考になると思います。



避難所の当初の様子。

電気は非常用電源のため、照明だけに限られていました。暖房は電気を使わない灯油ストーブが重宝されます。欲を言えばヤカンをのせて湿気を出したいところですが、調理用に優先使用されているため加湿ができませんし、換気にも気を付けなければなりません。

余震も多いため、避難通路スペースは広くとられています。

他に、ポリタンク、灯油の給油ポンプなども津波で流されやすい物のため、灯油が配給されても保管するものが無く困っていました。

猫も杓子も禁煙ブームのため、ライターを持っている人がいなくてストーブに火が点けられなかったという笑い話のような避難所もありました。もちろんマッチ売りの少女もいません。因みにローソクの火も点けられません。

※避難所ではカップラーメンは敬遠されます。というのも、人数分のお湯が用意できないのです。

トイレ施設はかろうじて生きていますが、数が圧倒的に少ないため屋外の仮設トイレがメインになります。大量に紙を使う人は要注意!直ぐに詰まってしまう後始末が大変なんですから。



約700人が避難した田老町の施設。普段は屋内ゲートボール場として使用されています。当初はプライベートなど皆無の空間でした。

食器は余震等を考慮してプラスチック製を使用。ガラスや陶器製だと割れた時が心配です。水道の復旧前はラップをかけ、復旧後は食後に洗って使用します。



女性からの要望で着替える場所が欲しいとのことで、急遽テントを調達して三か所に設置。



避難所であっても美しくありたいと願う女性のために、姿見や鏡等も必要になってきます。ただし、余震なども考慮してガラス製品は避けたいところです。



子供達のための学習コーナー。小さな子供のためのプレイコーナーも作りました。本当はお年寄りにも配慮して別棟に作りたかったのですが。



被災しても課題はしっかりと与えられていました。私だったら・・・即、遊びに行きます。でも遊ぶところが被災してるから行けないか？



鉛筆とノート(低学年用)は大量にあります、欲しかったのはシャープペンとルーズリーフノートでした。残念！
習字道具も送られてきましたが、洗われておらず。悲惨です。



本も支援物資として送られてきますが、アダルト用も・・・とりあえず虫干しして選んでから並べます。かなりカビ臭いんですよ！
お店の名前が洒落ています。



県立大から寄贈されたパソコンで安否確認や、各種申請書類、求人情報などの検索ができます。こちらはIT関連企業からボランティアで来た人におまかせ。



お年寄りの憩いの場となった、テレビ前の特等席。でも、流れてくるのは暗いニュースと「こんにちワン!」ばかり。
フェラインハウスからDVDプレーヤーとDVDソフトを大量に持ち込みました。



食事の配膳風景、配っているのは被災者の方々。避難所では被災者の方の自治に極力任せるようにしています。



入り口付近の掲示板。様々な情報が張り出されています。夜間は保安のために警備員が常駐しています。左の方。



医師による巡回診療は週に二回行われます。また、遠く下関から保健師さんが配属されてきており、毎日健康相談を受けられるようになっています。



左の写真は、被災したマッサージ師の方々。自分たちの施設を津波で失ってしまった総勢10名ほどが結束して、避難所を巡回して被災者の体と心をほぐしてくれました。

午前と午後の二回、いわゆるエコノミークラス症候群予防のため、ラジオ体操と換気を行いリフレッシュしています。





避難所の自治組織の代表と、役場の方が毎日ミーティングを行い、必要なもの、改善点などを話し合っています。しかし、写真のように男性ばかりですから、きめ細かな配慮まではできません。そこでボランティアの面々が活躍できます。あのガソリン不足をものともせず集まった猛者ぞろいですから、経験・知識も豊富で全て何とかしてしまいます。



屋外のプール施設を利用した共同洗濯所。支援物資で洗濯機が届けられたため、急遽設置。雨天でも利用可能なようにテントも用意しました。



大勢の人が利用するためルール作りも重要な課題になります。

中にはいるんですよ、洗濯したまま買い物に行っちゃう人が、ルールというよりマナーの問題ですよ。



洗濯所も主婦層の井戸端会議の場所、ベンチやテーブルも追加で設置。

洗濯ができるようになったら、干す場所も必要で、ビニールの丈夫なヒモ・洗濯バサミ・物干しハンガーなどが必要になります。



うら若き乙女たち?の要望で、下着を干す場所が欲しいということで屋外行事用のテントを設置。本当は外に置きたいんだけど、監視の目が行き届かないということで、施設内に設置しました。



☆念願のプライベート空間☆
写真は、一応モデルルーム。段ボールだけ
ど・・・



間仕切りをもっと高くという声もありました
が、一人で避難しているお年寄りもいるため、様
子が伺えるようにこの高さを設定しました。



☆支援物資の配給日です☆
この日は女性用衣料が並べられました。皆さん少
しでも程度の良いものと必死です。



配給が終わった後は、津波の後より悲惨？
後片付けもボランティアの仕事です。片付けの最
中も返品があったり、大混乱です。選んだまでは
良かったけど、入らなかった・・・ 知るか!と心
で思っても笑顔で対応、大人ですから？



以外にも、中
高生男子が紙
芝居に夢中。
お姉さんが目
当て？



K下大サーカスからもボランティアでパフォー
マンスを披露。ちょっとした小道具で様々な芸を繰り
広げてくれました。



鬼より怖いと、その筋のやんちゃなバイク少
年から恐れられている神奈川第二交通機動
隊、略して二交機のお巡りさんです。

不来方高校音楽部による慰問演奏会



総勢20名が、父母、OB、OG等の寄付によりバス一台をチャーターして活動。
悔りがたい高校生のフットワークの軽さ。



避難所の空席(スペース)は、仕事やガレキの処理などで外出している家族のもの。



合唱団員が被災者のそばで、「ふるさと」を合唱。しかし、あるお年寄りは無残な姿の家を思い出し、「死にたくなった。」と漏らしていた。選曲にも配慮が必要であることを実感。



最後に被災者の方々に、手書きの励ましのメッセージと、のど飴を一人一人に配るとい、ささやかではあるが心のこもった配慮を見せて締めくくられました。



びっしりと書き込まれた手書きのメッセージとのど飴。慰問団としては第一号であるため、被災者の方々にとって何よりのプレゼントでした。



避難所施設の代表者が不来方高校音楽部の皆さんに深く頭を下げて、その労をねぎらい感謝をあらわしていました。

陸上自衛隊 第9音楽隊【青森駐屯地より】による慰問演奏会



演奏開始前にジュース・お菓子を配布。
避難所内で遊んでいた子供たちも直ぐに集まり、この日一番の盛り上がりを見せていました。



バスと楽器には、「けっぱれ 岩手」の文字が。
「けっぱれ」は津軽弁で「頑張れ」の意味。



第9音楽隊のさらに精鋭部隊により編成された合唱団。じいちゃん婆ちゃんも大喜びでした。
風がちょっと強かったけれど、心配された雨も降らずに演奏は続きます。



子供たちが元気だと、避難所も明るくなりますよね。
千年に一度の災害をのりこえた子供達ですから、きっと素晴らしいふるさとを創ってくれると思います。



子供たちもリズムセッションに参加。お菓子貰っちゃったからね、断れないよね？
でも、楽しそうでした。



締めくくりは、軽快なマーチの曲で会場を練り歩いて被災者を応援。アルトサックスの女性のはじけていました。

被災者への支援活動あれこれ (1)



あれれ? どこかで見た記憶が・・・
お婆ちゃんと、子供達には人気があるんだよね。若い娘には・・・?



被災者といえども甘えてばかりはいられません。食事の配膳や掃除など、中・高校生の男子も率先してお手伝いしています。



青森県大鰐町からは、名物の温泉もやしを使った豚汁がふるまわれました。さすがにブランド豚までは使用していませんでしたが、お肉ともやしはたっぷり!



秋田県鹿角市からは、きりたんぽといぶりがっこが振る舞われました。あたりに漂ういい香り～! 被災地であることを忘れる瞬間です。



普段は湘南の海で営業しているという、たこ焼き屋さんとお好み焼き屋さん。遠くから千人分の食材を揃えてやってきました。



子供たちも大好きです。一人で三回並んだという強者もいました。たこ焼き食べて、お好み焼き食べてを三回、おなかは大丈夫? 写真の女の子ではありませんよ。念のため。

被災者への支援活動あれこれ (2)



プロレスラーの中西 太さんも支援に来ていました。気は優しくて力持ち。焼きそば用の割りばしが上手く掴めません。指もぷっつい!



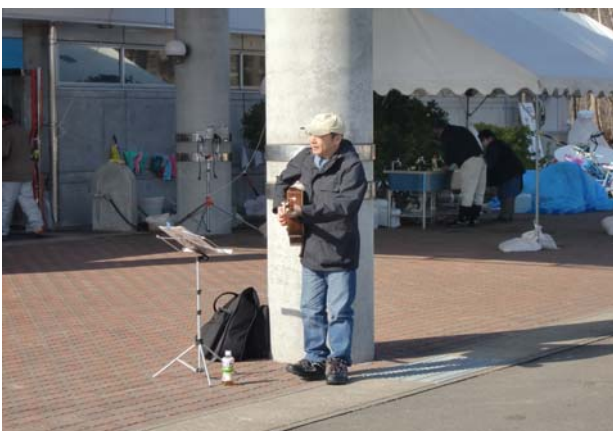
子供たちのサインや記念写真にもこころよく応じていました。ごめんなさい、覆面の人の名前を聞きそびれました。伊達直人さんでないことは分かりますが・・・



埼玉で英語を教えている二人のオーストラリア人。ギターとマイクを持って被災地・避難所を巡っているそうです。音楽は言葉の壁を乗り越えますね。



カメラに収められなかったけど、小っちゃい子供も一生懸命に手拍子をしていました。



こちらは新潟からギターをかかえてやってきました。



あれ?この看板はもしかして、そうです。あのお店も被災地を巡回して歩いています。でも、古着なんですよ・・・